



# 市職員が市民活動の現場を体験

## より良いまちづくりへ 市民協働を学ぶ



稲城市が目指す「協働のまちづくり」を実践していくため、市職員が市民活動団体の活動に参加する「市民協働研修」が実施されました。

これは、職員が実際に市民活動団体の活動を体験することによって、市民活動をより身近に感じ、協働に対する認識と協働のまちづくりへの理解を深めるとともに、何よりも、研修で体験し感じたことを今後の業務の中で生かしていくことを目的としています。

研修の実施にあたり、市の人事課から相談を受けた私たち市民活動サポートセンターいなぎでは、研修の趣旨に賛同し、研修生の受け入れ先として右表に示した7つの団体とのコーディネートを行いました。

研修は、入所1年目の職員と5年目の職員4～5人で班を形成し、それぞれ市民活動団体に関わりました。これによって、将来より良いまちづくりをしていくために、行政職員として市民活動団体とどのように協力関係を築き、連携をしていけば良いか、体験の中から学びました。

研修の成果は、昨年12月に稲城市役所会議室で行われた報告会で発表されました。本号では、各班の研修成果の概要を紹介します。

※以下、各班の研修報告は紙面構成の都合上、順不同で掲載します。

### 研修受け入れ団体と研修生

	研修受け入れ団体	団体の活動内容	研修生
A班	支え合う会 みのり	高齢者への配食・会食サービスの実施や居場所づくり等を通じた支え合いの地域づくり	嶋津 一輝 松井 海菜 丸山 日向子 森 歩惟 花房 哲一朗
B班	ふれあい広場 ポーポーの木	高齢者、障害者、育児、ひとり親家庭等の支援を通じた地域のネットワーク作り	村山 紗希 佐藤 亜沙美 田崎 弘人 紅林 真奈
C班	いなぎFF ネットワーク	地域の大人との関わりを通して、中学・高校生がホッとできる居場所を作る	鷹合 裕輝 江口 陽児 上原 優希菜 竹本 怜夏 古屋 良平
D班	クッチイナいなぎ	調理を通じて親子・地域の絆を深めるこども食堂の実施	加藤 千佳 上原 誠 坂田 彩加 田中 溪太
E班	はらっぱの会	親子で楽しめる講座・イベントや一時預かり等を通じた子育て支援	吉津 里砂 小出 珠夕 上山 凜人 杷野 美砂
F班	いなぎエコ・ミューゼ	まち歩き等を通じた、自然・文化・歴史など稲城の魅力の再発見と発信	山口 耕平 原 愛梨 長原 梨英 澤田 開 清水 大樹
G班	友遊クラブ	放課後デイサービス等による障害のある子供たちの自立支援	安達 諒 清正 梨花子 佐宗 航 伊是名帆邑理

## いなぎエコ・ミュージゼ

研修生：山口耕平・原愛梨・澤田開  
長原梨英・清水大樹

■ **団体の設立理念**：まちを「まるごとミュージアム」と捉え、地域の自然・文化・歴史と触れるイベント等を通じて、稲城市の魅力を見出す。

- **主な活動**：①まち歩きイベントの実施（5月 大丸用水、8月 南山、11月 ニュータウン（パブリックアート）、  
②いなぎ発見マップづくり  
③他地区のまちづくりの見学会

■ **団体が目指す「これから」**：「アーバンヴィレッジ」実現のためのプロジェクトに携わる＝歴史的遺産の残る場所に都市的な建物・仕組みを組み込んでいき、それらをコミュニティ・ビジネス形式で実現する！

■ **私たちができること**：市民と連携し、更なる市の魅力を創出していく＝「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」を実現するために、今あるヴィレッジ的な要素（田園風



景や水辺空間といった安らぎをもたらす自然環境）の魅力の発掘と、不足しているアーバン的な要素（人々が交流できる場や仕組み）を組み合わせることで、稲城市の更なる魅力を創り出していく。



- 行政が市民と同じ視点を共有する→「市民生活に根差したまちづくり」につながる
- 市民との交流を活発に→行政・市民が各々の能力・スキルを出し合って協力する

■ **私たちにとって協働とは**：行政と市民（団体含む）がお互いの自立性を尊重しながら得意分野を活かし、共通課題達成のために相互協力を図っていく、「まちそだて」をすること！

## NPO 法人 友遊クラブ

研修生：安達諒・清正梨花子・佐宗航・伊是名帆邑理

■ **団体の設立理念**：障害のある誰もが等しく、生き生きと社会生活を送ることができるよう、様々なことを仲間と共に体験できる場を提供する。

余暇活動の充実を図ることを基本に、集団性を生かして協調性が身につくよう支援し、地域とのかかわりを通じて社会性を習得できるよう自立に向けた支援をする。

- **主な活動**：①放課後デイサービス「友遊クラブI合」  
②日中一時サービス「ダイナマイツ」



子供たちのストレス発散の場

「今日も一日楽しかった」と思ってもらえること

■ **団体が目指す「これから」**：仲間と共に過ごし生きる喜びを感じることができる社会の実現

- ①自立に向けた支援
- ②保護者が抱える負担の軽減と精神面での支援
- ③地域の理解



■ **私たちができること**：団体継続・発展に向けてのサポート＝施設の当事者のみならず地域住民の理解を深めることで、より地域に浸透させることができるのではないか。

そのためには… ↓

- ・市民団体に向けての効果的な情報発信
- ・市民団体が参加・参画しやすいイベントの提供

■ **私たちにとって協働とは**：市民と行政が互いに尊重し合いながら、対等の関係をつくる！そして、一緒になって共通の課題に取り組むこと！

## いなぎ FF ネットワーク

研修生：鷹合裕輝・江口陽児・上原優希菜  
竹本怜夏・古屋良平

■**団体の設立理念**：中高生が、第三者との関わりを持ち、多感な思春期を上手に乗り越えていくことを願い、子供たちが「ホッとくつろげる居場所づくり」を目指す。

■**主な活動**：①陽だまりスペース（楽しく話したり、ボードゲームができる）、②児童館プレイルーム（バドミントン・卓球・ドッジボールなど）、③学習室（各自自習・スタッフの方に勉強を教えてもらえる）、④食育・多世代交流（箸袋作り・可愛い匂い袋作りなど）

■**団体が目指す「これから」**：これまでの活動＝スタッフの情熱で20年間「居場所」を五中ブロックの子供を中心に提供してこられた。



課題＝親や子供間での認知度不足、本当に居場所のない子供たちを救っているか



### 令和時代に対応した居場所づくり

■**私たちができること：情報・知識による支援**

- ① SNS の活用方法の提供（学べる機会、場所等）
- ② 市の事業との連携（子ども家庭支援センター総合相談や教育相談等）
- ③ 市役所の関係部署との情報交換（教育や福祉等）

■**私たちにとって協働とは**：市民と行政が地域社会の課題を共有し、対等な関係で相互に連携し、それぞれの役割を果たす

## NPO ふれあい広場 ポーポーの木

研修生：村山紗希・紅林真奈・田崎弘人・佐藤亜沙美

■**団体の設立理念**：高齢でも障がいをもっている、住み慣れた地域で最期まで助け合って暮らしたいという願いで始まった

■**主な活動**：①地域のネットワークづくり（居場所づくり）、②自立支援事業、③介護保険事業、④訪問介護事業、⑤産前産後の育児支援事業、⑥ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業

■**団体が目指すこれから**：  
行政と市民で共通意識をもつ

- ① 世代交代＝開設から20年以上経ちスタッフの高齢化が進み、次世代の後継者に周知をはかっていく必要がある
- ② 行政と市民団体との認識の差＝行政と市民団体と



の間に認識の差があるため、行政職員が現場の実態を知る必要がある

■**私たちができること：地域の方々からの認知を深める取り組みを行う！**

- ① 効果的な情報発信＝SNSを利用した「ポーポーの木通信」の積極的な発信を支援する
- ② 積極的に団体を盛り上げる＝密に情報交換を行って実態を知る
- ③ スタッフ確保支援＝ボランティア意欲のある市民と市民団体とのマッチングの場の提供

■**私たちにとって協働とは**：市民と行政が密に連携することで、課題に対し同じ方向性で解決を目指す！

## NPO 法人 はらっぱの会

研修生：吉津里砂・小出珠夕・上山凜人・杷野美砂



■ **団体の設立理念**: 子育て支援や他団体への協力を行い、会員一人一人が笑顔で楽しく、生きがいを持って活動する

- **主な活動**：
- ①地域の行事に参加して、わらべ歌や折り紙などの伝承遊び
  - ②わらべうたベビーマッサージ講座
  - ③子育て支援拠点事業として一時預かり
  - ④助産師による講座 など

■ **団体が目指す「これから」**：行政との連携強化を図るとともに子育て支援と高齢者のやりがいを醸成する

- ①会員の特技を生かした産前産後の子育て支援の強化
- ②年齢に関係なく、やりがいを持って活動できる場所の提供
- ③行政の委託事業として認可を受けたい

- **市の課題**：
- ①稲城市の主体性不足
  - ②市民団体の活動への理解が乏しい



③市から協働の働きかけがない

■ **私たちができること**：オープンな姿勢の提供

そのためには ↓

情報共有をする場を設け、団体や市民からの要望に対して真摯に向きあうことに努める

**市民と行政が良きパートナーとなるため  
信頼関係を構築する**

## クッチィナイなぎ

研修生：加藤千佳・上原誠・坂田彩加・田中溪太

■ **団体の設立理念**：調理を通じて親子・地域の絆を深める中で、稲城の子供たちを孤食から救うことを目標として、稲城青年会議所が母体となって2017年にスタートした。

- **主な活動**：月に1度の「こども食堂」の開催
- 子供食堂とは：①ケア型（貧困対策・個別対応が目的）、②共生・コミュニティ型（共生・全方位対応が目的）（クッチィナイなぎは②！）
  - 課題：①活動場所の確保、②後継者問題、③参加可能人数の限度、④目標と現実のギャップ

■ **団体が目指す「これから」**：

**子供たちの居場所づくり**

- ①地区ごとのこども食堂の設置
- ②他の市内団体とのタイアップ
- ③居場所を守るために人材確保

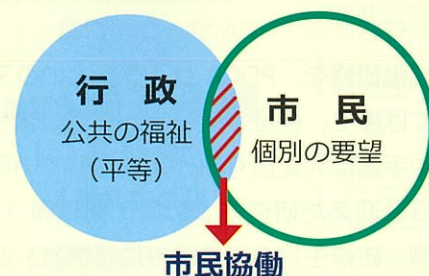
■ **私たちができること**：活動しやすい環境・設備を整え



**ていくこと**

- ①既存の施設の有効活用（現在利用が不可能な施設の利用）
- ②人材集め
- ③他団体とのパイプ役

■ **私たちにとって協働とは**：



## NPO 法人 支え合う会みのり

研修生：嶋津一輝・松井海菜・森歩惟  
花房哲一朗・丸山日向子

■**団体の設立理念**：支える者と支えられる者が対等な立場を保ち、住み慣れた地域に安心して生き生きと住み続けられる地域社会づくりを目指す

- 主な活動**：①食事サービス事業(配食サービス・会食会)  
②ミニデイサービス「たまりば」  
③広報活動  
④稲城市委託事業・他機関との連携事業

■**団体が目指す「これから」**：高齢者にとっても活躍できる場所づくり、生きがいづくり、食を通じて若い人同士が集まれる場の提供



- 課題**：①ボランティアの確保  
②収入の増加  
③若年世代の取り込み



「みのり」の活動を知ってもらうための情報発信

■**私たちにとって協働とは**：支え合い

## 市民協働研修を受け入れて

今回、研修生を受け入れた2組の市民団体の方から、市民研修に対する感想や意見が寄せられましたので、紹介します。

それぞれの立場で、市民協働研修の意味と目指すべき効果を振り返ることを提案したいと考えます。

※ PDCA サイクル：PLAN（計画）・DO（実行）・CHECK（測定・評価）・ACTION（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させ、マネジメントの品質を高めようとする概念。

(1) **PLAN**：研修自体はもとより研修から考えられる協働の方向性を再確認する。主催する人事課とサポセンと受入団体の3者で研修の目的と目指す効果を確認・共有する。

市民活動の実態とメンバーたちのまちづくりや活動に対する思いを感じてもらう。ポイントは、協働の基本である対等の立場の再確認と、『協働によるまちづくりや街の活性化』のために必要なそれぞれの立場やパワーを理解して、どんな行動を生み出せるのかを研修の目的にしていけることが大切。

(2) **DO**：3者の事前打ち合わせに基づいて研修を実施する。研修生に対する事前説明の重要性。

(3) **CHECK**：研修報告会は、サポセンと受入団体も交えて開催する。

受入団体側の見解や意見（行政に対する苦情や要望ではなく）を交換し、より様々な可能性を見据えた活動にするための方策について、お互いの立場から考える場にする。

(4) **ACTION**：人事課とサポセンで研修報告の内容を共有し、次年度の研修について内容を検討する場を設ける。

以上、それぞれの立場で検討していただければ幸いです。

### ○市民協働研修の発表会に参加して

市民協働研修の成果発表会に、研修を受け入れた協力団体として参加しました。発表会は、今年度の研修職員が他の職員へ市民団体の活動内容を伝える形で行われ、協力団体は自分たちがどのように理解され評価されたかを伺うのみ。ある団体は、これまで2度研修生を受け入れ、その際に協働への要望等も伝えたそうですが、その後行政の取り組みや改善状況が知られることもなく、また同じことが職員の行うべき協力事項として挙げられ、がっかりしたと話していました。

市民協働を充実させるための研修であるなら、研修先の団体について予習をできていただきたいと思いますし、継続的な関係が築ける研修ができれば良いと思います。一時的な研修の繰り返しでは、市民団体の期待に応えられません。協働研修を機に、市職員と市民団体との交流ができると、私たちも今後の活動への展望が開けてくると思います。

### ○市民協働研修における PDCA サイクル検証

今回の市民協働研修を、PDCA サイクルというマネジメント手法に当てはめて、検証してみたいと思います。

研修の趣旨や手法は大変良く組み込みされていると思うが故に、3年目を迎えた研修について、関係者（企画側、仲介側、受入側、研修生）の取り組みに『慣れ』が生じてきてはいないかと若干懸念を抱いています。

# 市民協働研修発表会に参加して

市民活動サポートセンターいなぎ  
前理事 小林 攻洋

この研修が今の形になってから今年が3年目、発表会には3度とも参加させてもらっていますが、パワーポイントを使った今時の若い職員のプレゼンテーションの上手さには毎回感心させられています。

ただ少し気になったことは、この研修が市民との対等な話し合いの場ではなく、市民からの要望や苦情を聞く場になってしまっていないかという懸念です。あるグループの発表にそれに近い表現があったからです。



私が市の職員になった頃は、まちづくりへの“市民参加”の重要性が盛んに叫ばれていた時代でした。しかし“市民参加”は行政のアリバイ工作ではないか?! というような批判もあって、少し色あせてきた時に登場したのが“協働”の考え方でした。それは目からウロコでした。というのも、私自身“市民参加”にまつわる市民と行政間の相互不信に忸怩たる思いをしていたからです。



もう一度おさらいをすると、協働のまちづくりを進めるに当たって必要で大切なことは「補完性/自主・自立/情報の共有と公開/目的の共有/対等の関係/相互理解/役割分担と責任範囲の明確化」といった原則を尊重することだと言われます。

コトバにしてしまうと「なるほど」と理解できますが、いざ実行に移すととなると、そう簡単なことではありません。例えば、市民や職員という立場を超えて相互に理解し合い、対等な関係をつくるには、けっこう時間が掛かりますし、乗り越えなければならぬハードルも沢山あるからです。

そして、相互理解や対等な関係を作る上で大事になることの一つは、「共感」し合うことだと思います。ただし、ここで言う共感とは「シンパシー」ではなく「エンパシー」、すなわち相手との違いを超えて、その立場にたつて相手の感情や経験などを理解しながら話し合いを進めることです。



「税金を納めているのだから、まちづくりは行政がやるべきだ」とする考え方が最近では主流になっていますが、稲城がまだ村や町だった頃のまちづくりの主役は市民（住民）でした。行政施策の中にその痕跡がたくさん残っています。私自身は、まちづくりを行政の占有事項とはせず、市民にもまちづくりを進める責任や義務・権利があると考えています。また、一緒に汗を流して進めてみると、まちづくりの面白さや楽しみが分かってくるから、それを行政の占有事項にしてしまうのは勿体ない気がしています。



今回研修に参加した大部分の職員は、仕事以外で市民（活動団体）と話し合いをしたのは初めてだと思います。ですから、以上のことを踏まえて、これで終わりではなく、ここが出発点だと思って欲しいのです。この研修をきっかけに、実務の中で「協働」への思いを育み、実践に結びつけていって欲しいと願っています。

※「エンパシー」について知りたい方は、ブレイディみかこ著「他者の靴を履く ～アナーキック・エンパシーのすすめ～」(文藝春秋刊)を一読されることをお勧めします。

ご案内

## NPO 講座

# 世代循環型のNPO

～事業承継と世代交代の仕組みづくり～

メンバーの高齢化や次世代の担い手不足に悩む市民活動団体が、いかに後継者への世代交代を進め、チームのミッションを果たしていくか。地域の多様な働き方に出会う「はたらき方マルシェ」の開催やコミュニティ運営、起業支援等を行う非営利型株式会社ポラリスの取締役ファウンダー・市川望美さんにお話しいただきます。

日時  
3月20日(水・祝)  
10:30～12:00

会場  
稲城市地域振興  
プラザ  
4階大会議室

NPO講座  
事業承継 世代交代 運営課題  
300円  
世代循環型のNPO  
～事業承継と世代交代の仕組みづくり～  
日時 2024年3月20日(水・祝)  
10:30～12:00  
会場 稲城市地域振興プラザ 4階大会議室  
お申し込み・お問い合わせ先  
TEL 042-378-2112  
info@inagi-support.org

申込み・問合せ  
市民活動サポートセンターいなぎ TEL. 042-378-2112

## 金曜サロンスペシャル 新年のつどい～利用者懇談会～

稲城市に在住・在勤で、ユニークな趣味や特技があったり地域活動に活躍している方を話し手に迎え、会場の参加者との質疑や意見交換を通して、見識を広める「金曜サロンスペシャル」(毎月第1金曜日の晩に開催)。毎年1月は、これまでの話し手や市民活動サポートセンターいなぎの会員などにお声がけして、「新年のつどい～利用者懇談会～」として開催しています。

今年度は1月12日に52名の方の参加のもと開催しました。種田副理事長が司会を務め、角田理事長の挨拶、来賓の稲城市・石田副市長の挨拶、サポートセンターいなぎ会員の秋草氏より乾杯の発声の後、参加者は会食を楽しみました。中盤では当センター元職員の吉井氏による「爆笑！五街道クイズ大会」や、角田理事長・村尾副理事長コンビの進行によるビンゴ大会で盛り上がりました。



### 市民活動サポートセンターいなぎ 理事研修

## 町田市の市民協働の取り組みを学びました

市民活動サポートセンターいなぎは、市民協働によるまちづくりや市民活動支援事業等について、先進的な取り組みを行っている団体を訪ねる理事研修を毎年実施しています。今年度は、町田市の地域活動サポートオフィスまちだを訪ねて、市民協働の現状や中間支援組織としての取り組みなどを学びました。

町田市は、かつての一町四村により市となったまちで、現在310の自治会・町内会、約190のNPOがあり、青少年育成地区委員会や学校、福祉法人、消防団など様々な地域団体が活動しています。それらの地域団体が連携してより良い地域づくりに取り組めるよう10の地区協議会が結成され、独自のイベント開催など地域の特色を生かしたコミュニティづくりが行われています。

さらに、市民活動に対するニーズの多様化、複雑化、細分化に対応するため、2019年に同オフィスが設立され、「つくる(市民活動団体や事業の立ち上げ支援)」「ささえる(団体と事業の運営支援)」「つなげる(人と団体、団体と団体のつながり作りを支援)」ことにより、「かえる(地域活動の活性化を通じて、地域をより良くかえる)」



ことをミッションとして、NPO、地域・市民活動団体、個人の活動を支援しています。

特に、年1回開催する市民協働フェスティバル「まちカフェ!」では、100以上の団体・個人が実行委員として参画し、2023年度は去る12月2日から10日までに100を超える体験イベント等が行われました。

また、市長をはじめ行政側の市民協働に対する積極的な姿勢や同オフィスの運営面など有意義な情報・意見交換をすることができました。